もうひとつの最後の晩餐の意味 **2016 03 13** ヨハネによる福音書 **12:1-8** 牧師 安達均

ヨハネによる福音書/12章

1過越祭の六日前に、イエスはベタニアに行かれた。そこ には、イエスが死者の中からよみがえらせたラザロがいた。 2:イエスのためにそこで夕食が用意され、マルタは給仕を していた。ラザロは、イエスと共に食事の席に着いた人々 の中にいた。 3:そのとき、マリアが純粋で非常に高価な ナルドの香油を一リトラ持って来て、イエスの足に塗り、 自分の髪でその足をぬぐった。家は香油の香りでいっぱい になった。 4: 弟子の一人で、後にイエスを裏切るイスカ リオテのユダが言った。 5:「なぜ、この香油を三百デナ リオンで売って、貧しい人々に施さなかったのか。」 6: 彼がこう言ったのは、貧しい人々のことを心にかけていた からではない。彼は盗人であって、金入れを預かっていな がら、その中身をごまかしていたからである。 7:イエス は言われた。「この人のするままにさせておきなさい。わ たしの葬りの日のために、それを取って置いたのだから。 8:貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいるが、わたし はいつも一緒にいるわけではない。」

主イエスキリストの恵みと平安が集まった会衆の心の中に、 注がれますように!

2014年夏に流行した、アイスバケッツチャレンジという募金活動を覚えているだろうか? 筋萎縮性側索硬化症(きんいしゅくせいそくさくこうかしょう、英語: Amyotrophic lateral sclerosis、略称: ALS) の難病と闘うため、ALS アソシエーションがはじめた募金活動。

バケツに入った氷水を頭からかけている様子をビデオ撮影し、それを Facebook などの交流サイトで公開する。ビデオの最後では、次にやってもらいたい人物を 3 人指名する。指名された人物は 24 時間以内に、1) 同じことを行なうか、2) 100 ドルを ALS 支援団体に寄付するか、3) あるいはその両方の、どれかの方法を選択するというもの。

ALS アソーシエーションによると、一連の募金活動により、約一億一千五百万ドルの募金が集まったそうだ。 しかし、この募金活動中に、大きな非難も浴びた。とくにカリフォルニアにおいて。というのは、2014年は水不足だったから。聞くところによると、アイスバケッツチャレンジを実行したものに、500ドルの罰金を科したとも聞いた。 みなさんは、アイスバケッツチャレンジをどう思われただろうか? あるいは、今振り返ってどう思うだろうか?

本日の福音書箇所、ヨハネ福音書 12 章 1-8 節。 聖書に よれば、イエスは、マルタ、マリア、ラザロのいるベタニ アの家にすくなくとも3回はやってきた。一回目はマルタ は給仕をいっしょうけんめいしているのに、マリアが手伝 わないのに腹を立ててしまったことがあった。

二回目は、ラザロが一度死んだのに、イエスはラザロを蘇らせた。 そして、三回目の場面が、今日の箇所。いよいよイエスが十字架に架かる金曜日の6日前、イエスと弟子たちは食事をしにきた。

イエスは、マルタ、マリア、ラザロと最後の夕食をとった。 受苦日の前日のイエスと12弟子の最後の晩餐とくらべ、 これは信徒たちとの晩餐であり、もう一つの最後の晩餐と もいえるかもしれない。 ここでも、また後世に伝えられ る、ひとつの大切な出来事がおこった。 どういう出来事かというと、マリアが、イエスのそばにやってきて、いまのお金で300万円くらいするような、超高級なすばらしい香りのする油をもってきた。 そしてびん一杯、一リトラ、326グラムに相当するそうだが、イエスの足にかけ、自分の髪の毛で塗って、イエスの体に捧げてしまう。ちなみに、マルコ福音書では、アイスバケッツではないが、頭からかけたとなっていた。

ョハネ福音書の記述に戻るが、弟子の一人のユダから、「もったいない、その香油は300万円で売って、貧しい人に捧げるべきではなかったのか」という、非難の声が聞こえてきた。

それに対して、イエスは答える。「この人のするままにさせておきなさい。わたしの葬りのためにそれをとっておいたのだから。」と応える。 イエスは、その六日後の金曜日に、十字架刑にあい、本来であれば、油を塗られてから葬られるのに、その金曜日の夕方はには時間がなく、油を塗られることもなく葬られてしまう。 しかし、葬られたままで終わるのではなく、イエスは復活して、全世界に、神の赦し、和解、愛が、ひろがっていった。

今日の話のポイントは、わたしたちに、ひとつのチャレンジをせまられる。 ユダが示唆したように、なんでもかんでも、ただお金を貧しい人に与えて、それで終わりとすることがよいのか? それより、イエスとの関係に、捧げることなのか?

今日のイエスの言われた、マリアのするままにさせておきなさい、という言葉から、私たちは慈善という善い行いでも、まず、イエスとの関係が優先された上での、慈善とい

う行為があるということを学んでいるのではないだろうか? 慈善団体というのは、神の愛なしには、つまり神なるイエスの体が働いてくださらなければできない、そういう行為なのではないかと思う。マザーテレサも、あるドキュメンタリーで、ほぼ同じことを言っておられた。

昨晩はアーバインのヤマハでチャリティコンサートが行なわれた。 今日の午後も、チャリティコンサートで東日本大震災の被災者のための、寄付を募る。だれもが無給でコンサートに奉仕する。そして集まったお金は、アメリカ福音ルーテル教会から日本福音ルーテル教会へ、つまりイエスキリストの体を通って、送られる。

現在は、関東・東北の教区の牧師・信徒たちが、日本中の活動をよく見た上で、福島で困難を強いられている方々のために、どういう施設やプログラムを支援すればよいかも検討して行動している。 そこには、慈善という行為が、ただお金を送ったり、ただ援助活動を行なうというだけではなく、イエスの体・教会を通して、聖霊の力をおび、被災者・避難民の方々への、慰め、励み、癒し、となって働き続けている。